

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	B棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地-24		
自己評価作成日	令和2年5月24日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた当施設では、行事に力を入れています。月に4回～5回のドライブ、買い物、地域交流を目的とした外出、また、行きたい所へ出掛けて頂けるような外出の時間も設けています。また、年3回、特養と合同で行われる行事も、利用者の皆様に参加できるプログラムを組み、楽しんで頂いています。野菜や花を育てる事も意欲的に行っており、夏はグリーンカーテンで日よけを作る事で、利用者の皆様に季節を感じて頂くよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内にある特別養護老人ホームと連携し四季折々の行事を開催することで、利用者の楽しみや生きがいとなるよう取り組んでいる。同法人が運営する地域交流施設「はなぶさ」を活用し、利用者が地域住民と交流できるよう、またホームの理解につながるよう取り組んでいる。同町にある協力医から定期的な訪問診療があり、些細なことでも相談し、医師から指示がもらえるよう連携を図り、利用者の安心安全な生活の継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解したり意識した業務が行えるように、ミーティング等で定期的に理念の共有を行っている。	理念を理解、意識した業務が行えるよう定期的にミーティング等で確認している。また、言葉かけや態度、記録等からも、理念に沿ったケアができていないか振り返りを行い、理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、地域住民が集まる場へ出掛けたりと、交流する場面は多い。	普段から地元商店への買い物や地域交流施設へ出向き、交流を図っている。また、地元幼稚園児の訪問や、ホームからも行事へ利用者と一緒に参加するなど、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と交流する機会に、情報交換を行う事がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動や行事について報告を行い、意見を頂く場となっている。また、頂いた意見を行事等に活かせるようにしている。	家族、利用者の参加があり、意見交換を行い、そこでの意見をサービスに生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事がある際、市の担当職員に相談したり、行事で市の施設を使用させて頂く時も連絡を差し上げている。	運営に関することなどを相談し、アドバイスをもらうなど、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催したり、ミーティング等で相談しあう等して、身体拘束のないケアについて意識している。	職員勉強会で、定期的に身体拘束について学び理解を深めている。スピーチロックについても、意見を出し合うなど、日々のケアに生かされるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催している。また、利用者への対応について疑問がある際はミーティングの時間を活用し話し合いを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会を持つようになっている。後見人制度の利用者が1名いらっしゃる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分な説明を行えるように意識し、また、疑問に思われる点がないか伺っている。電話での相談も承っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やモニタリング、アセスメント等で意見をお聞きする機会が多い。また、職員への申し送りは必ず行い、ミーティング等で運営、ケア等に活かせるかの検討を行っている。		来訪時や電話で、こちらから声掛けすることにより意見や要望を出しやすくなるよう配慮している。出た意見等については、職員全員が共有し運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、行事計画会等で出た意見を職員間で情報共有し、業務に活かしている。		管理者は、ミーティングや職員会議等をはじめ、日頃から、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。また、職員の提案を代表者に相談し、環境整備に繋げるなど、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの性格の把握、また、私生活の事情に沿って、業務内容について臨機応変に対応している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特養との勉強会への参加や、外部研修に参加する機会がある。研修内容についての報告を行ったり、個々人の力量に沿って参加する外部研修を選択する事もある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等への参加が他事業所との意見交換をする機会となっている。また、有意義な情報に関しては職員間で情報共有できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や関係者からのご意見や、ご本人の様子から把握に努め、また、距離感を詰めすぎないように配慮しながら会話の時間を持つようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係者からの意見、ご本人の様子も含め、ご家族からの要望等の把握に努めている。また、雑談等も交えながらコミュニケーションを図るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で必要な支援を踏まえつつ、継続したサービスについても検討、対応できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に簡単な家事等を行ったりと、生活を送っているという事を意識して頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康診断や外来受診の対応については、ご家族の対応に任せている。また、ご本人について相談させてもらい、アドバイスを頂く事も多い。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事内容の中で、ご本人が馴染みの場所に行けるように外出する機会を設けている。その際は事前にご家族に電話し、地域住民とお会いする機会となる事もある。		町の中心部にある地域交流施設を定期的に訪問し、顔なじみの方との交流の継続を支援している。月2回それぞれの利用者の「行きたいところ」へ出かけられるよう、要望に沿った外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、職員が十分に把握できるように意識している。会話の仲介を行う事もある。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や関係者の要望次第で、必要に応じて相談に乗ったり、支援を行う場合もある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメントの他に、生活の中、利用者同士の会話や様子からも暮らし方への希望等を把握するよう努めている。		日頃の様子や、聞き取った情報から意向を把握し、個々に対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係者、ご家族、ご本人からお聞きしたり、生活の様子から暮らし方の把握をすることもある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に介護記録を作成し、現状の把握ができるようにしている。また、職員同士の情報共有も盛んに行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係各位からの意見の抽出、また、状態の把握に関しては日常生活の中からもヒントを得ながら職員同士で意見交換し、介護計画に反映するようにしている。		担当制で、モニタリング表とは別に、1か月ごとに利用者状況をまとめ記録し、介護計画に反映させている。毎日の記録と介護計画を連動させることで、介護計画に沿ったケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に記録をしており、ケアの中での気づきに関しては、ミーティングや職員間の情報共有を行っている。介護計画に反映させるよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の支援が得られない場合もある。職員で対応が可能な部分に関しては、臨機応変なサービスを心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区消防団の協力体制があったり、地域の美容院、店との付き合いもある。買い物の際は特に、常連客との関わりも持っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の同意を得、協力医に定期的な訪問診療受診を依頼している。必要に応じて電話相談したりと、速やかな対応を心掛けている。	町内にある協力医との連携に努め、定期的な訪問診療を受けられるよう支援している。緊急時には、電話やファックスにて情報提供を行い、医師から適切な指示を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急を要す対応や、訪問診療時以外での相談等に関しては、速やかに電話相談したりと速やかな対応を心掛けている。素早い対応ができています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時等は特に積極的に、病院関係者と連絡を取り合うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期等の対応については書類での確認を行っている。また、今後は定期的な再確認も必要だと感じている。	入居時に、書面にてホームの方針等の説明を行い家族や本人の意向を確認している。また、定期的に全利用者の家族に書面を送付説明をし、意向やホームの方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で、緊急時の対応について職員間で話し合いを行っている。また、実践時には速やかな対応ができています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風時期は避難誘導する機会が多い。全職員が対応できる実践力を持っている。	工叢災害警戒区域になっており、早い段階で避難することが多いことから、隣接する特別養護老人ホームと合同で訓練を行うなど、災害対策に取り組んでいる。また、地域住民の駆付け訓練も行うなど、協力体制の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの性格について把握し、個別性のある対応を心掛けている。	親しみを込めた言葉かけが、誇りやプライバシーを損ねないよう、出身地等にも配慮し、一人ひとりに沿った言葉かけを心がけ、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でコミュニケーションを図り、ご本人が気持ちを表出しやすい関係性や雰囲気作りを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が生活の中で無理強いする事のないように配慮している。また、ご本人の希望に沿って、日中も休む時間を持たれる事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、ご自分でできるように声かけしている。また、活動や行事等に合わせ化粧したりの支援も行う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けやテーブル拭きを、協力して皆さんで行って頂いている。また、いただきます、ごちそうさまでしたの挨拶は利用者の皆さんに順番でお願いしている。	法人内で栄養価や季節感のある献立になるよう検討している。食事前後の挨拶を利用者が担当するなど、利用者間のコミュニケーションづくりにもつながり、食事を楽しむことができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方へは代替食を提供したり、好き嫌い、病状に沿って食事内容を変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。毎食後口腔ケアができるように声かけを行い、付き添い、見守り、介助等の支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や使用する尿取りパットの選別は注意している。また、ご本人が使いやすい環境整備の支援も行っている。	排せつ間隔を把握することで、リハビリパンツから布パンツ使用や夜間帯だけおむつ使用など、排せつの自立に向けたケアに取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて協力医に相談したりしている。また、腹部マッサージや水分摂取を促す等の支援を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に応じて入浴剤を使ったり、よもぎ湯等で楽しんで頂けている。また、ご本人の気分に沿い、無理強いする事のないように配慮している。	よもぎ湯や桜の花びらの造花を湯船に散らし、季節感を出し、入浴を楽しむことができるよう工夫している。また、入浴できない方には、体調に留意しながら清拭対応するなど、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない配慮も行うが、昼食後の昼寝の時間等の邪魔はしないように注意している。ご本人に任せて休息の時間を持って頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は職員に周知し、注意が必要な物に関してはしっかりと申し送りするようにしている。また、症状の変化に注意を払う必要がある際は申し送りノートや記録等に記載する事もある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は行事、活動に参加して頂く事が多いが、午後は思い思い過ごしてもらっている。好みに合わせ道具を貸し出す事もある。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動や行事の時間を活用して、外出の機会を設けている。また、ご本人が行きたい所へ出かけられるように支援する時間も行事予定に組み込んでいる。	活動時間を利用して、庭を散歩するなど、気分転換を図っている。事前に、一人ひとりが希望の場所に外出できるよう聞き取りし、家族の協力も得ながら、外出が楽しめる支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時間にお会計をお願いし、欲しい物を買って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が要望した際はご家族と電話できるように支援している。また、年末になると活動時に年賀状を書く時間も設けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った壁飾り作成や、夏はベランダでのグリーンカーテンの作成、目に入る所に季節の花を植える等、季節を感じて頂ける工夫は行っている。また、陽が強く当たらないように葦簀を活用する事も多い。	共用部分は、採光や空調に気を配り、居心地よく過ごせるように努めている。ラジオを活用したBGMや、移動式畳ベッドなどの家具を配置するなど、利用者がゆったり寛げるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室にソファを設置している。また、ホールに座れる畳もあり、利用者が活用できるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス上や壁に、装飾品や写真立てを置かれている方は多い。	家族の写真や思い出の品が自由に持ち込まれ、馴染みの物に囲まれて、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を招くような配置、乱雑に物を置かないような配慮を行っている。また、トイレや浴室には手すりを設置、廊下に邪魔になるような物は置いていない。			